

令和6年度 教育保育活動等に対する学校評価書

令和7年2月17日

学校法人めぐみ幼稚園 めぐみこども園長 山田典子

学校法人めぐみ幼稚園 学校関係者評価委員長 坂上恵信

1 幼稚園の教育目標

昭和22年創立以来、キリスト教の「愛の精神」を根底におき、乳幼児の発達に相応しい心の教育を行っている。共に喜び、共に育ち合うために、保育者は一人一人の内面を理解し温かくきめ細やかな援助を行う。また、主体性や協同性を発揮して遊べる環境を構成し、生きる力の基礎を培うことを目標とする。平成27年度より幼保連携型認定こども園 めぐみこども園に移行したが、創立の精神は大切に守っている。

1. 子ども自身が大切な存在として受け入れられていることを実感し、自分自身を喜びと感謝をもって受け入れることができる。
2. 目に見えない神の恵みを、常に感謝と喜びをもって受け止め、神に愛され、人にも愛され、喜びをもって人と関わることができる。
3. 自分と他の違いを認めると共に、友だちと共に喜び、共感できるようになる。
4. 主体性を持って心を動かし、探求心、判断力、想像力をもち、創造的に様々なことに関わるようになる。
5. 感じたこと、考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現力、想像力を身に付ける。

2 本年度の重点目標（学校評価の具体的な目標や計画）

【重点目標】

- ・教育課程、指導計画の内容を確認し、新たに年間カリキュラムを作り替え、子どもの育ちに着眼して計画し、実践していく。また、キリスト教保育の年間主題を「さあ、漕ぎ出そう 奏でよう」とした。
- ・新型コロナウイルス感染症が5類に変更されたが、対策は緩和しつつも給食前の手指やテーブルの消毒、バス車内の消毒など今までと同じように行う。また、感染症罹患者が園内で出た場合は、保護者へ注意喚起を呼びかけ、幼児はマスクの着用に協力してもらい、感染拡大を防止する。
- ・保護者や地域との連携を深め、信頼される温かな幼稚園づくりを目指す。
- ・外部講師による絵画造形活動を通して、教員の資質向上を図る。また、様々な行事の内容も見直し、より保護者も園の活動を応援したくなるようなものにしていく。
- ・特別支援を要する園児に対する理解を深めるため、巡回指導の臨床発達心理士から助言を受ける。必要に応じて保護者にも臨床心理士との面談を勧め、実施された際にはこども理解と今後の保育の方向性を共通理解する機会とする。
- ・教育要領の中にある「卒園までに育てたい10の姿」を研修テーマとし、その姿に向かうための活動を各学年で考え、取り組んでいく。

乳児

- ・母親と離れて新しい環境で過ごすことへの不安を解消し、安心安全に過ごし、楽しさを見いだせるように援助する。
- ・一人一人の生育歴や生活環境、個性を理解し、保育教諭の共通理解を図る。
- ・自立を目的とし、お手伝いを初め乳児自らが生活に必要なことを進んで行えるよう指導、援助を行う。

幼児

- ・安心感や信頼感が得られる環境の中、友だちの良さに気づき、心も体も動かして意欲的に活動するように援助する。自己肯定感がもてる子どもを育成する。
- ・友だちとのかかわりを深め、協同性を育む豊かな体験や活動ができる保育を創造する。
- ・園内環境に留まらず、近隣の地域環境を利用してより多種多様な経験ができるよう計画を立てる。
- ・小学校教育へのなめらかな接続を視野に、人間関係・コミュニケーション能力、規範意識等を身に付けさせる。
- ・基本的な生活習慣を見直し、一人一人の課題について保護者と共に見直し改善に向けて努力する。また、生活力の向上を図るため、お手伝いや運動にたくさん取り組む。

3. 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果評価点は A：十分に成果があった B：成果があった C：少し成果があった D：成果がなかった

評価対象	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価点	こども園としての反省と改善策	評価点	意見
保育の計画と実践について	<ul style="list-style-type: none"> 園の理念・教育課程、指導計画の内容を確認し、教職員の共通理解を図り教育の質を高める。 キリスト教の「愛の精神」について学ぶ。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 幼保連携型認定こども園教育保育要領の理解を全教職員で積極的に推進し、実態を把握しながら日々の保育の改善に繋がる研修を継続していきたい。 毎月「キリスト教保育誌」を読み合い年間主題について意見交換を進めた。幼児の具体的な場面を話し合うことでキリスト教の「愛の精神」を共通理解できた。しかし保護者アンケートから、保育実践の中から伝えていく難しさを今年も感じた。 外部講師による年間カリキュラムの研修が11年目を迎えた。園の理念や教育方針を踏まえて、早期にカリキュラムを編成することに教員が前向きに取り組んでいる。引き続き、カリキュラムの見直しや教材研究を通して、より良い保育を子どもたちに提供できるよう努力していきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達の日々の生活を垣間見ても、はつらつとして生き生きと楽しんでいる様子が伺える。そして、子ども達の表情が明るく大変穏和で、言葉遣いも丁寧であることから、教師の援助の細やかさや温かみを感じる。 「ひびき合う」などの園だよりから、キリスト教保育の温かさや、職員全員が子どもに愛情を注いでいることが伝わってくる。 外部講師の影響からか、子ども達が絵を好きになり、楽しみつつ集中して描いていることが作品からも窺える。清水私立幼稚園協会主催「5歳児絵画展」が協会HPで公開されたが、めぐみの子ども達の作品は際だっていた。 母の日、父の日、感謝祭、クリスマスなどで、園で作ったプレゼントの質が向上しており非常に感動している。これは教師の指導の賜物と思う。 アプリ、ブログの導入は有効であり、業務内容が改善されたことは非常に良いと思う。保護者世代は紙面よりアプリでの配信が身近であるため、今後、園からのお知らせ等可能な限りブログ、ホームページにおいて配信してほしい。

<p>保育のあり方、乳幼児への対応</p> <p>発達障害児の援助</p> <p>食育の充実</p>	<p>乳幼児の生活や発達に即した援助について</p> <p>異年齢交流</p> <p>預かり保育</p> <p>行事の見直し</p> <p>食育</p> <p>保健・安全指導</p>	<p style="text-align: center;">B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスの担任だけでなく、全教職員が幼児一人一人の内面を理解し優しく温かな援助を行い、発達課題について日々検討している。乳児と幼児の教員のコミュニケーションを多く図ることで、異年齢のかかわりも増し、子ども理解が深まり、教員同士のつながりも深まってきた。 ・コロナ禍を経て減っていた幼児と乳児の交流を再開し、子どもの育ちにつながっている。大きい子は小さい子に優しく、小さい子は大きい子への憧れを持ち、互いに学び合い刺激し合っている。預かり保育の子ども達の活動内容を、乳児のお手伝いとなることにしてみたりと今後も検討していきたい。 ・子どもたちに片付けや掃除の楽しさを伝え、子どもと共に環境を作り上げるよう心掛けている。家庭でのお手伝いにつなげていきたい。 ・預かり保育担当の保育者を増員し、保育内容をカリキュラム化した。日中からの遊びや育ちに合った午後の遊びを計画することで、子どもの活動が充実し、成長に繋がっている。 ・行事は昨年と同様に行った。しかし昨年度の運動会の日程では、練習期間も含めまだ残暑が厳しく、熱中症の危険性があったため、今年度は1週間遅らせ、クラスごとにテントを設置して対策した。功を奏し、涼しい風が吹き始める気候の中練習・本番を行うことができた。 ・給食は勿論のこと、おやつも給食室で手作りを基本としている。メニューを伝え、料理に合ったカトラリーを選ばせることで食事のマナーも学んでいる。 ・夏野菜の栽培に加え、ワクワク広場に畑を作ったことで、野菜の生長を日々見届けることができ、観察していた野菜が給食に出ることで、食への興味関心が深まった。 ・毎朝、園庭の遊具の安全チェックや砂場の衛生管理を行っている。 ・特に乳児には注意を払い、室内の衛生管理、安全 	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が全員の子どもをよく理解し、丁寧に関わっているため、安心して子どもを預けることができる。 ・異年齢交流の再開は喜ばしいことだと感じている。もとより優しい年長、年中児だが、自ら率先してやることを見つけようとしていたり、年下や乳児の世話も積極的に行う姿も見られるようになり、親としても嬉しい限りである。縦割り保育ではないが、同じ効果が得られているように思われる。 ・生活経験や直接体験に欠ける子どもが増えているように感じる中、園側で補おうと努力していることを感じる。 ・様々な家庭の事情から預かり保育の人数が増えているが、充実した活動内容が考慮されており、安心して利用している。おやつは市販のものが少なく、子どもの体に対する暖かな配慮を感じる。 ・保護者参加の行事では、家庭で見られない子ども達の成長を見ることができた。親から離れて頑張っている子ども達の姿は本当に輝かしいものであった。そこに尽力してくださる先生方の努力には毎度感服している。残暑が長引く昨今、運動会の熱中症対策は、親としても心配なことであったため、練習を含め園が対策を講じていることは非常に安心につながった。 ・めぐみこども園は給食が美味しいことで定評があるので、このまま手作り給食・手作りおやつを続けてほしい。また、野菜作りなどを通しての食育教育も引き続き深めてほしい。 ・野菜作りから食育体験へと繋げていく活動も意義深い。また、プランターや鉢植えの花も子ども達の手で植え替えや世話をしており、情操教育として有効である。 ・子ども達が大好きなアスレチックなので、今後も安全管理に務めてほしい。
--	---	--	--

	<p>不適切保育について</p>	<p>管理を日々チェックしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児は別館と本館の間に公道があるため、交通安全教室で道の渡り方を指導してもらい、お散歩や帰りの道でも子ども自身が注意を払えるよう教員が指導している。 ・今年は夏の暑さが非常に厳しく、プール・乳児と幼児の両園庭に暑さ指数計を設置し、活動実施の目安とした。屋外活動が制限される中、園児の体力低下を危惧し、リトミック活動を多く取り入れ、体力増進に心がけた。 <p>・キリスト教保育を実践していることから、「他者への思いやり」「互いを尊重し合うこと」を子ども達へ伝えている。それは子ども同士のみならず、保育者同士も同様である。イエス・キリストの教えを、学ぶため、毎月のバイブルクラスで牧師から教えを受け、キリスト教の理解に励み、それを子ども達へと降ろしているが、保育者自身の心の糧ともなっているからこそ、子ども達へ降ろせるのである。</p> <p>・日々忙しく仕事をしていると疲弊してしまうこともあるが、互いに認め合い、年齢・経験を問わず一人ひとりが大切にされる環境がとても良いという意見が出た。また、日々の報告で子ども達の様子を伝え合い、全員の保育者がすべての子どもを理解し対応していることで、保育者集団としての団結を強め、保育者個人の安心にもつながっている。そのことは、保護者アンケートからも感謝の言葉が多く寄せられた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・異常な暑さの中、子ども達の健康管理にはご苦労があったと推察する。ただ室内活動に移行するだけでなく、体力に配慮した活動が加えられたことは良かったと思う。 <p>・めぐみの保育はとても丁寧で、担任にかかわらず先生たちが子ども全員を理解・把握して暖かく見守ってくれると、保護者アンケートにも多くの声が寄せられていた。また、外部からもそう聞き及んでいる。社会現象のようにメディアで取りざたされ、叱ることもできないような雰囲気になってきていることに危うさを感じている。めぐみの先生方は、きちんと何が悪かったのか説明し、子どもが納得できるように話して下さるので、子ども自身がよく理解し、成長へとつながっているように感じる。今後も暖かい保育を続けていってほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの命を守るため、毎回の確認が非常に大切である。欠かさずに今後も継続していただいたい。
	<p>スクールバスの安全点検について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・乗降時の人数・名前確認を徹底しダブルチェックしている。また、降車後もバス運転手が停車後に座席を確認し、置き去り防止アラームを押している。 ・出席確認は毎日バスが到着してから、保育室へ連絡し、出席と遅刻・欠席の確認を行っている。連絡のない遅刻者へは連絡をし、保護者に確認している。 	

	障害の特性や個別の支援方法について		<ul style="list-style-type: none"> ・巡回指導の臨床心理士による個別指導の下、具体的な手立てを保育者間で共有し、保護者と面談してもらうことにより、保護者の子ども理解が深まり、子どもの成長がみられた。また、外部の支援施設に通所している園児が増えてきた。施設の教員の訪問を受け入れ、園、家庭、支援施設の3者で共通理解を得て子どもの育ちにつなげている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害の子どもへの研修は今後も継続して行ってほしい。また、巡回指導のカウンセラーの指導があることは、教員だけでなく保護者の安心にもつながることだ。保護者の子ども理解も深まっていくことを望んでいる。
	友だちとのかかわりを深め、協同性を育む体験や充実した環境の工夫と援助について	B	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が自己発揮できる場面や友だちの良さを認め合い仲間づくりができる環境を設定している。また、友だち同士のかかわりを深め、一つの目標に向かって協同する体験や活動ができる環境を整えたことで、自信を持つ姿が伺えた。 ・今年度の夏は長期間熱中症アラートが発令されるほどの猛暑であったため、園外保育で思い切り体を動かす経験、豊かな自然に触れ合う機会が減少してしまった。年長児の自然遊びも富士川楽座の「どんぶら」という室内活動に変更せざるを得なかったことは非常に残念だった。来年度は時期や活動内容を変更することも視野に入れ、体力向上、道徳性や豊かな感性の芽生えにも繋がる活動を取り入れていきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園での積み木遊びや砂場でのダイナミックな遊び、アルチックでの活動を見ていて、充実した園生活と感じる。子どもはこのような遊びを通して、友達の良さに気づき、アイディアにも共感して、仲間意識が生まれると感じた。 また、参加会での活動は保護者からも評価が高く、子ども達が自分たちで考え合って取り組み方を決めている姿は親が見ていても感動するものがある。 ・自然遊びは年長児だけの特別な活動という期待があっただけに、室内活動への変更は苦肉の策であったと推察する。子どもの健康・安全を第一に考え、来年度の取り組みを検討してもらいたい。

<p>小学校教育・家庭との連携について</p>	<p>規範意識を高め、小学校入学への滑らかな接続を図る</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートが、家庭での生活を知る良い機会となった。小学校生活に向けて不安を抱えている保護者も多く見られたが、多くの年長児が自立してきていると感じる。 ・体力作りとお手伝いが生活力の基盤となるため、晴れている日には園庭においてアスレチックを活用したサーキット運動を実施した。また、時間の意識、持ち物の整理整頓など基本的な生活習慣を見直し、「できることは自分でやる」ことで、自信をつけるための研修を重ね実行した。 ・公開保育を実施し、小学校の先生方へ当園の保育や子どもの実態を見て頂く機会とした。 ・5歳児は近隣の小学校訪問をして1年生との交流会に参加し、1年生から小学校でどのような活動をするのか教えてもらい有意義な経験となり、小学生への意識が高まった。 ・交通安全教室を通して、通学の心得や安全な歩行について学ぶ機会をもった。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多数の小学校へ入学することをふまえて、様々な「生きる力」を育み保育していくことで、こども園で培った学びや道徳性などが、小学校以降の生活や学習に生かされていると思う。 ・小学校への期待と不安を抱えている年長児にとって、小学生との交流は、一つの安心材料になったと推察する。また、小学校への意識が高まったのではないかと思う。今後もこのような交流や小学校の先生と連携を深めてほしい。 ・教職員が近隣の小学校へ授業参観に行き、卒園生を励ましていると伺い、とても意義深いことと思う。今後も継続してほしい。 ・近年、子ども達を取り巻く環境が様々に変化して、生活力の乏しい子どもが増えていると思う。子どもだけでなく、子育てに自信が持てない親も多い。園では子どもと親の両者が学べる場として教育を提供してほしい。
-------------------------	---------------------------------	--	---

<p>教師としての資質や能力・良識・適正</p> <p>研修と研究</p>	<p>専門家としての能力・良識・義務</p> <p>保護者対応</p> <p>地域の自然や社会との関り</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師としてのプライドを持ち、園外においても言動に十分気を付けている。 ・組織の一員として各々の役割を果たし、教職員同士尊敬の気持ちを持ち人間関係を大切にしている。 ・子どもを取り巻く社会情勢に常にアンテナを張り巡らせている。 ・個人情報等守秘義務は遵守している。 ・対面研修が増え、実技研修も行われるようになったので、直接講師から講義を受ける研修が保育者の資質向上につながっている。リモート研修も園内で受講できるため、有効活用している。 ・保護者には誠実な態度をとり、子どもの育ちについて理解と協力を頂けるようコミュニケーションをとっている。 ・保護者からの意見は真摯に受け止め、園長はじめ教職員で話し合い、改善できることは即実行に移している。 ・お散歩マップを作成し、地域の道路や施設（公園など）の環境を把握し、自然のみならず安全面に関しても注意深く見直しをした。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めぐみこども園の教職員であることを常に心に留めて建学の精神を大切にしていくことで、地域の人々から信頼される園になる。卒園生もこの園をずっと愛し見守っていることを忘れないでほしい。 ・桜橋工事に伴い、園周辺の道路の交通量が以前に比べて増加している。園から出かける時、散歩等は十分気を付けてほしい。
---------------------------------------	---	--	--